

第Ⅲ部

独身者・夫婦調査共通項目の結果概要

第1章 子どもについての考え方

守泉理恵・新谷由里子

1. 未婚者の希望子ども数と男女児組み合わせ

未婚者の希望子ども数、男女とも低下

結婚意思のある未婚者が希望する子ども数の平均値は、第12回調査（2002年）以降、未婚女性で反転上昇していたが、今回は2.02人と前回（2.12人）から0.1人低下した。未婚男性については、第8回調査（1982年）以降、おおむね低下傾向にあり、今回は初めて2人を切り1.91人となった。

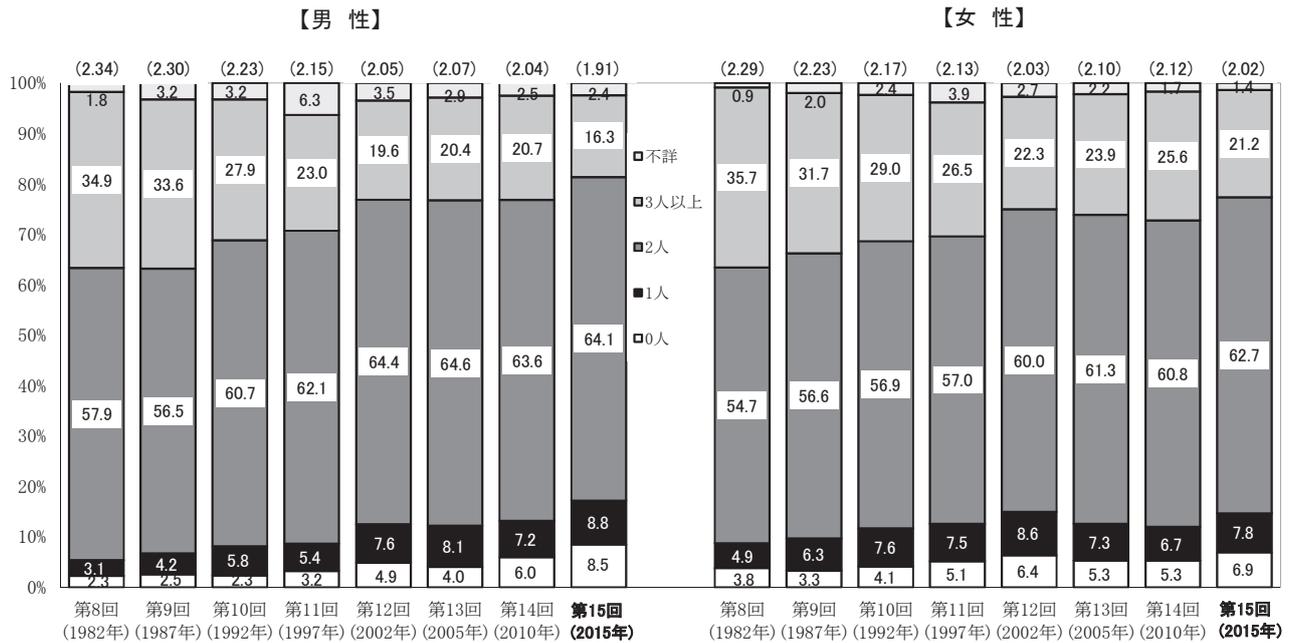
図表Ⅲ-1-1 調査・年齢別にみた、未婚者の平均希望子ども数

年 齢	第8回調査 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)	第15回 (2015年)
【未 婚 男 性 】								
18～19歳	2.32 人	2.30	2.19	2.21	2.18	2.15	2.09	1.97
20～24歳	2.35	2.30	2.25	2.15	2.05	2.11	2.09	1.95
25～29歳	2.37	2.30	2.22	2.14	1.99	2.05	2.05	1.91
30～34歳	2.30	2.26	2.21	2.13	1.98	2.01	1.92	1.83
総数(18～34歳) (客体数)	2.34 (2,573)	2.30 (2,929)	2.23 (3,672)	2.15 (3,203)	2.05 (3,270)	2.07 (2,652)	2.04 (3,084)	1.91 (2,263)
【未 婚 女 性 】								
18～19歳	2.35 人	2.29	2.20	2.25	2.13	2.23	2.16	2.05
20～24歳	2.34	2.26	2.22	2.16	2.09	2.18	2.20	2.09
25～29歳	2.18	2.18	2.10	2.13	1.98	2.03	2.06	2.03
30～34歳	1.90	1.83	1.90	1.76	1.87	1.84	1.97	1.78
総数(18～34歳) (客体数)	2.29 (1,970)	2.23 (2,371)	2.17 (3,212)	2.13 (3,093)	2.03 (3,001)	2.10 (2,698)	2.12 (2,993)	2.02 (2,263)

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。平均希望子ども数は5人以上を5として算出。希望子ども数不詳を除く。

希望子ども数の分布をみると、未婚男女とも「2人」とする割合が6割強と最も多い。未婚者は、子どもを持つことが結婚している夫婦よりもまだ現実的でない場合が多いため、「2人」という社会規範的な子ども数に回答が集まりがちである。また、未婚男女とも「0人」「1人」の増加と「3人以上」の低下傾向がみられる。とくに未婚男性では、0・1人の合計割合が17.3%となり、3人以上の割合を超えた。

図表Ⅲ-1-2 調査別にみた、未婚者の希望子ども数の分布

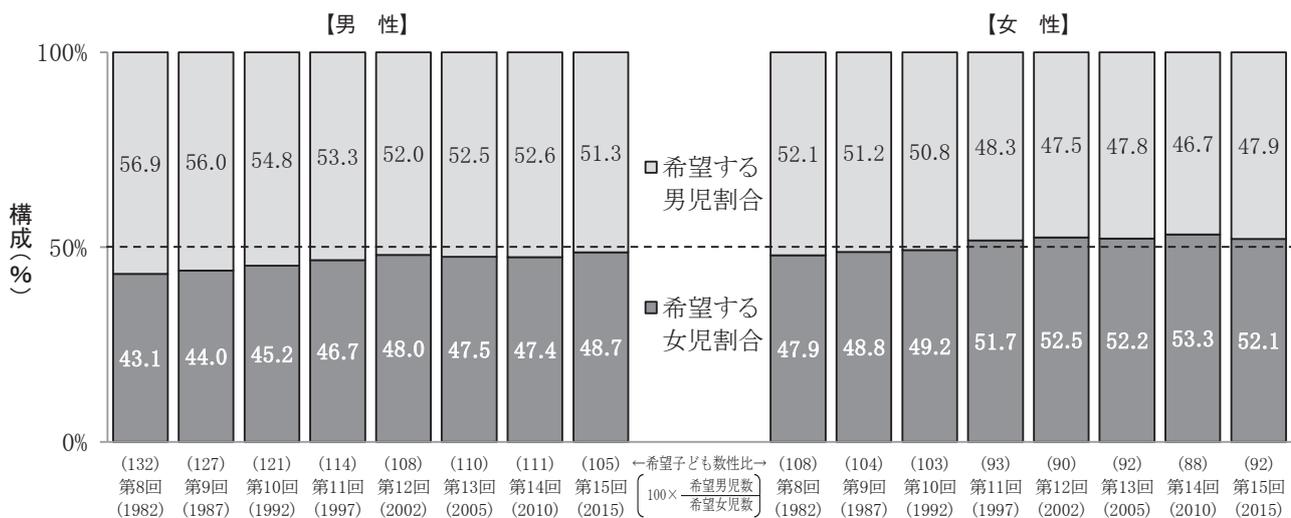


注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。()内は総数の平均希望子ども数。

未婚女性では女の子を多く望む傾向が継続している

結婚意思のある未婚者が希望する子ども数における男女児の構成は、かつて男女とも男の子をより多く望む傾向にあったが、第11回調査（1997年）以降、女性では女の子を望む割合が半数を超えている。一方、男性では、第12回調査（2002年）以降は男の子をわずかに多く希望する水準で変化が止まっており、近年の未婚男女はそれぞれ同性の子どもをより多く望む傾向にある。

図表Ⅲ-1-3 調査別にみた、未婚者の希望男女児数の総和の構成



注：対象は「いずれ結婚するつもり」で希望子ども数が1人以上かつ男女児組合せに希望があるとした18～34歳未婚者。本図は回答された希望の男女児組合せにおける総男女児数の構成を示し、グラフ下の()内の数値は、その性比（希望女児数100に対する希望男児数）であり、女児選好が強いほど値が小さくなる。

図表Ⅲ-1-4 調査別にみた、未婚者の希望子ども数別子どもの性別組み合わせ

【男性】

希望子ども数	希望男女児組合せ	第8回調査 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)	第15回 (2015年)
1人	男児1人・女児0人	80.0%	69.8	58.2	42.0	47.1	51.0	53.2	52.9
	男児0人・女児1人	20.0	30.2	41.8	58.0	52.9	49.0	46.8	47.1
2人	男児2人・女児0人	7.9	5.7	6.7	5.1	4.2	4.6	4.6	2.6
	男児1人・女児1人	91.0	92.9	91.2	91.9	92.8	92.7	93.8	95.8
	男児0人・女児2人	1.1	1.4	2.0	2.9	3.0	2.7	1.6	1.6
3人	男児3人・女児0人	2.4	2.9	3.1	4.0	1.9	2.3	2.5	2.1
	男児2人・女児1人	80.2	77.9	72.4	69.3	64.9	61.1	63.2	57.7
	男児1人・女児2人	16.8	18.6	23.2	25.5	31.2	35.5	33.1	39.2
	男児0人・女児3人	0.7	0.6	1.3	1.2	1.9	1.1	1.2	1.0
希望子ども数性比 $\left(100 \times \frac{\text{希望男児数}}{\text{希望女児数}}\right)$		132	127	121	114	108	110	111	105

【女性】

希望子ども数	希望男女児組合せ	第8回調査 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)	第15回 (2015年)
1人	男児1人・女児0人	59.6%	51.8	40.5	38.5	30.4	39.1	27.2	28.6
	男児0人・女児1人	40.4	48.2	59.5	61.5	69.6	60.9	72.8	71.4
2人	男児2人・女児0人	1.3	2.9	3.9	1.9	1.4	1.5	1.2	1.6
	男児1人・女児1人	94.0	91.4	90.6	89.8	90.5	91.2	91.2	92.5
	男児0人・女児2人	4.6	5.8	5.6	8.3	8.1	7.3	7.6	5.8
3人	男児3人・女児0人	0.9	0.8	0.7	1.7	2.5	0.9	1.3	0.8
	男児2人・女児1人	67.0	61.9	62.2	50.7	46.8	47.5	41.1	46.8
	男児1人・女児2人	32.0	36.6	35.3	46.6	50.0	49.8	55.1	50.0
	男児0人・女児3人	0.2	0.8	1.8	1.0	0.7	1.8	2.5	2.4
希望子ども数性比 $\left(100 \times \frac{\text{希望男児数}}{\text{希望女児数}}\right)$		108	104	103	93	90	92	88	92

注：対象は「いずれ結婚するつもり」で希望子ども数が1人以上かつ男女児組合せに希望があったとした18～34歳未婚者。希望子ども数4人以上の組み合わせについては掲載を省略。希望子ども数性比については図表Ⅲ-1-3注を参照。第15回調査の表側項目別客体数は、希望子ども数1人（男性51人、女性56人）、2人（男性849人、女性993人）、3人（男性194人、女性250人）。

2. 夫婦の理想子ども数・予定子ども数と男女児組み合わせ

夫婦の理想子ども数、予定子ども数とも過去最低に

夫婦にたずねた理想的な子どもの数（理想子ども数）の平均値は、前回調査より0.1人低下し、これまででもっとも低い2.32人となった。夫婦が実際に持つつもりの子どもの数（予定子ども数）の平均値も前回調査に引き続き低下し、2.01人と過去最低になった。

図表Ⅲ-1-5 調査・結婚持続期間別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数

(1) 平均理想子ども数

結婚持続期間	第7回調査 (1977年)	第8回 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)	第15回 (2015年)
0～4年	2.42人	2.49	2.51	2.40	2.33	2.31	2.30	2.30	2.25
5～9年	2.56	2.63	2.65	2.61	2.47	2.48	2.41	2.38	2.33
10～14年	2.68	2.67	2.73	2.76	2.58	2.60	2.51	2.42	2.30
15～19年	2.67	2.66	2.70	2.71	2.60	2.69	2.56	2.42	2.32
20年以上	2.79	2.63	2.73	2.69	2.65	2.76	2.62	2.58	2.44
総数 (客体数)	2.61人 (8,314)	2.62 (7,803)	2.67 (8,348)	2.64 (8,627)	2.53 (7,069)	2.56 (6,634)	2.48 (5,634)	2.42 (6,490)	2.32 (5,090)

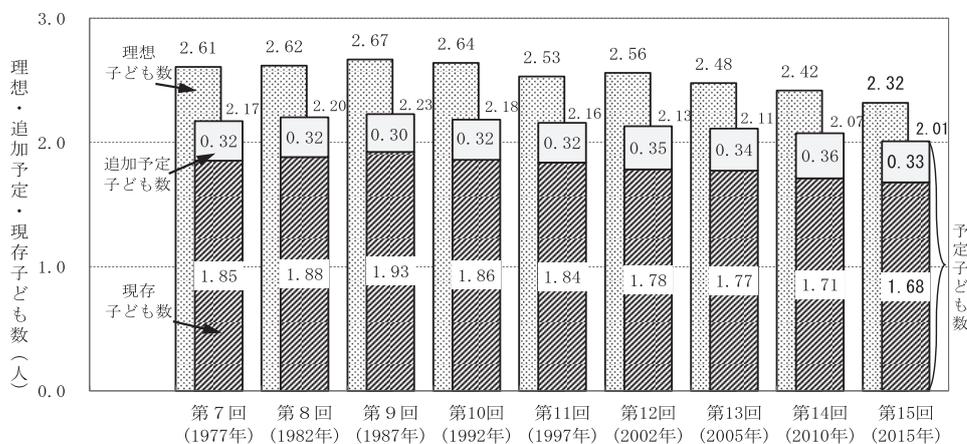
(2) 平均予定子ども数

結婚 持続期間	第7回調査 (1977年)	第8回 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)	第15回 (2015年)
0～4年	2.08人	2.22	2.28	2.14	2.11	1.99	2.05	2.08	2.04
5～9年	2.17	2.21	2.25	2.18	2.10	2.07	2.05	2.09	2.03
10～14年	2.18	2.18	2.20	2.25	2.17	2.10	2.06	2.01	1.92
15～19年	2.13	2.21	2.19	2.18	2.22	2.22	2.11	1.99	1.96
20年以上	2.30	2.21	2.24	2.18	2.19	2.28	2.30	2.23	2.13
総数 (客体数)	2.17人 (8,129)	2.20 (7,784)	2.23 (8,024)	2.18 (8,351)	2.16 (6,472)	2.13 (6,564)	2.11 (5,603)	2.07 (6,462)	2.01 (5,099)

注：対象は初婚どうしの夫婦（妻50歳未満）。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和として算出。理想子ども数、予定子ども数とも8人以上を8として計算（理想・予定子ども数不詳をのぞく）。総数には結婚持続期間不詳を含む。

設問 理想子ども数：「あなたご夫婦にとって理想的な子どもの数は何人ですか。」、（追加）予定子ども数：「あなたご夫婦の今後のお子さんの予定についておたずねします。（1）お子さんの数と、（2）希望の時期について、あてはまる番号に○をつけてください。」

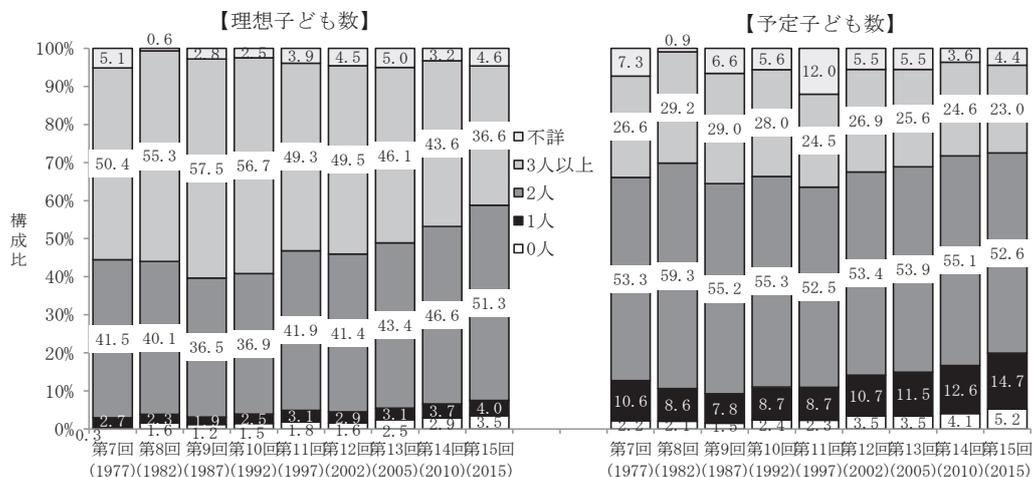
図表Ⅲ-1-6 調査別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数の推移



注：図表Ⅲ-1-5と同じ。

夫婦の理想・予定子ども数の分布をみると、理想子ども数では「2人」の割合が増えて、初めて総数で5割を超えた。一方、「3人以上」は4割弱まで減少している。予定子ども数では、第12回（2002年）調査以降、「1人」の割合が上昇しており、今回調査では14.7%となった。「0人」も微増しており、0・1人の合計割合は19.9%とほぼ2割を占めるまでになった。

図表Ⅲ-1-7 調査別にみた、夫婦の理想子ども数、予定子ども数の分布

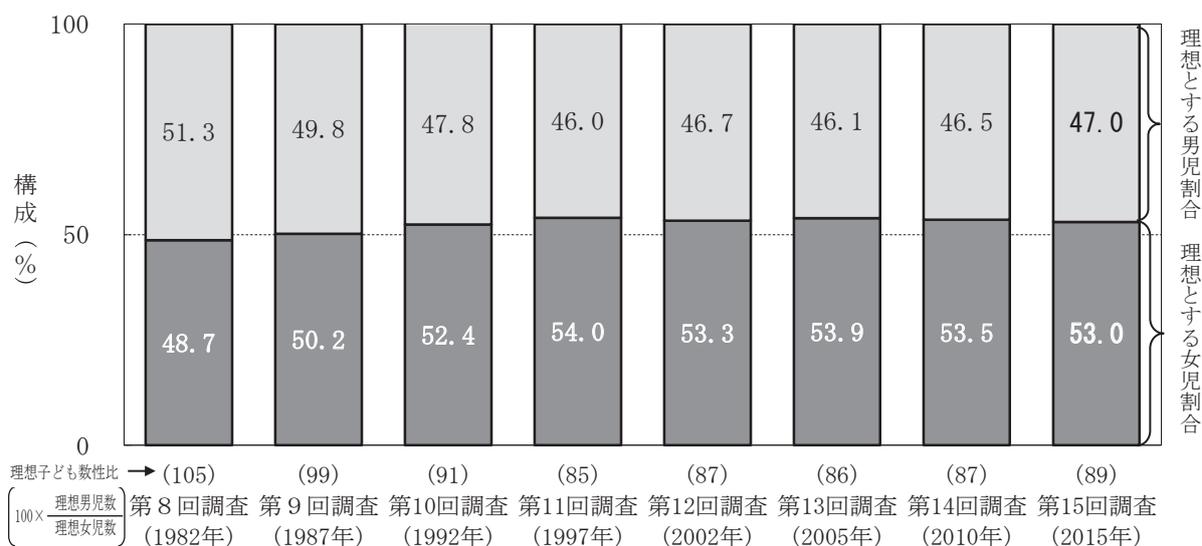


注：対象は初婚どうしの夫婦（妻50歳未満）。

夫婦の女兒選好の傾向は変わらず

夫婦が理想とする子ども数の男女児の内訳については、女兒選好の傾向が定着し、第11回調査（1997年）以降、理想子ども数性比（図中の（ ）内の数値）は85～89の間で横ばいに推移している。具体的な男女児組合せでは、理想子ども数2人における「男女児1人ずつ」の割合が継続して上昇傾向にあり、今回調査では90.9%となった。

図表Ⅲ-1-8 調査別にみた、夫婦の理想男女児数の総和の構成



注：対象は理想子ども数が1人以上かつ男女児組合せに理想があるとした初婚どうしの夫婦。本図は回答された理想の男女児組合せにおける総男女児数の構成を示し、グラフ下の（ ）内の数値は、その性比（理想女児数100に対する理想男児数）であり、女兒選好が強いほど値が小さくなる。

図表Ⅲ-1-9 調査別にみた、夫婦の理想子ども数別子どもの性別組み合わせ

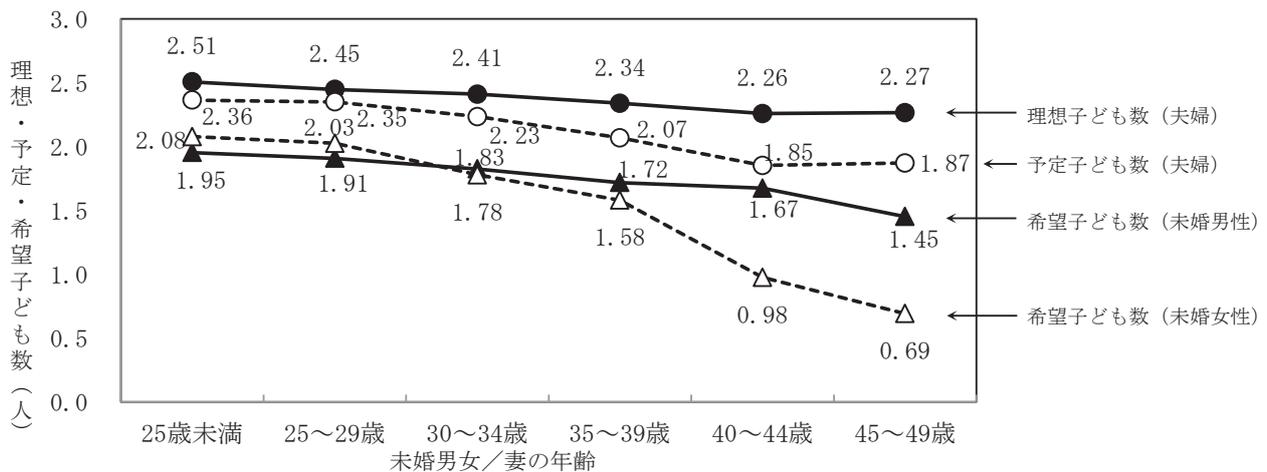
理想子ども数の男女児組み合わせ		第8回調査 (1982年)	第9回調査 (1987年)	第10回調査 (1992年)	第11回調査 (1997年)	第12回調査 (2002年)	第13回調査 (2005年)	第14回調査 (2010年)	第15回調査 (2015年)
1人	男児1人・女児0人	51.5 %	37.1	24.3	25.0	27.3	22.2	31.3	30.2
	男児0人・女児1人	48.5	62.9	75.7	75.0	72.7	77.8	68.7	69.8
2人	男児2人・女児0人	8.8 %	4.1	2.7	2.1	1.9	2.2	1.9	1.5
	男児1人・女児1人	82.4	85.5	84.0	84.9	85.9	86.0	87.9	90.9
	男児0人・女児2人	8.9	10.4	13.3	13.0	12.2	11.8	10.2	7.6
3人	男児3人・女児0人	0.7 %	0.5	0.3	0.4	0.6	1.1	0.9	0.8
	男児2人・女児1人	62.4	52.3	45.1	38.4	41.6	38.5	40.7	41.1
	男児1人・女児2人	36.2	46.2	52.9	58.9	55.4	58.3	55.4	55.7
	男児0人・女児3人	0.7	0.7	1.6	2.3	2.4	2.1	3.1	2.5
理想子ども数性比		105	99	91	85	87	86	87	89

注：対象は理想子ども数が1人以上かつ男女児組合せに理想があるとした初婚どうしの夫婦。理想子ども数4人以上の組み合わせについては掲載を省略。理想子ども数性比については、図表Ⅲ-1-8の注を参照。第15回調査の表側項目別客体数は、理想子ども数1人 (63)、2人 (1,663)、3人 (889)。

夫婦の理想・予定子ども数は未婚者の希望子ども数より高い傾向

「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚男女の平均希望子ども数と、初婚どうし夫婦の平均理想・予定子ども数を年齢別（夫婦は妻の年齢別）に比較してみると、全年齢層を通じて夫婦の指標のほうが未婚男女の指標より高い。また、夫婦の理想子ども数と未婚男性の希望子ども数は年齢による差が大きくないが、夫婦の予定子ども数と未婚女性の希望子ども数は35～39歳を境に低下し、40歳以降ではとりわけ未婚女性の低下が大きい。

図表Ⅲ-1-10 調査時の年齢別にみた、未婚者の平均希望子ども数および夫婦の平均理想・予定子ども数：第15回調査（2015年）



注：対象は、「いずれ結婚するつもり」と回答した18～49歳の未婚男女、および妻が50歳未満の初婚どうしの夫婦。平均理想・予定子ども数は8人以上を8として、平均希望子ども数は5人以上を5として算出（それぞれ不詳を除く）。

3. 子どもを持つ理由

子どもを持つ理由は、未婚者・夫婦とも「生活が楽しく豊かになるから」

希望子ども数を1人以上と回答した未婚者に、なぜ子どもを持ちたいのかたずねたところ、男女とも「子どもがいると生活が楽しく豊かになるから」という回答の選択率もっとも高かった。2番目に多かったのは、未婚男性では「結婚して子どもを持つことは自然」、未婚女性では「好きな人の子どもを持ちたい」であり、男女で回答に差がみられる。

図表Ⅲ-1-11 年齢別にみた、未婚者の子どもを持つ理由：第15回調査（2015年）

年齢	(客体数)	(複数回答)								
		子どもが豊かになると生活が楽しくなる	結婚して自然な子どもを持ちたい	好きな人の子どもの持ちたい	子どもは将来の社会の支えとなる	子どもは夫婦関係を安定させる	子どもは老後の支えになる	夫や親など周囲が望むから	子どもを認められることで周囲	その他
【未婚男性】										
18～24歳	(1,007)	67.6%	48.0	39.0	21.4	19.1	14.0	7.3	4.6	3.2
25～34歳	(983)	67.2	48.3	39.9	18.6	18.6	14.6	9.9	6.2	2.5
小計(18～34歳)	(1,990)	67.4	48.1	39.4	20.0	18.8	14.3	8.6	5.4	2.9
35～44歳	(490)	62.7	47.6	35.7	27.1	21.2	21.8	12.7	8.6	4.3
45～49歳	(115)	66.1	55.7	27.0	26.1	21.7	26.1	10.4	6.1	1.7
総数(18～49歳)	(2,595)	66.5	48.4	38.2	21.6	19.4	16.3	9.4	6.0	3.1
【未婚女性】										
18～24歳	(1,155)	75.6%	37.6	55.8	18.6	20.1	18.8	9.9	2.7	3.7
25～34歳	(874)	73.0	40.5	56.2	20.5	22.5	22.7	16.7	4.3	4.5
小計(18～34歳)	(2,029)	74.5	38.8	56.0	19.4	21.1	20.5	12.8	3.4	4.0
35～44歳	(277)	66.8	38.6	46.9	22.7	18.1	27.1	10.8	8.7	5.8
45～49歳	(34)	55.9	50.0	67.6	8.8	8.8	17.6	2.9	2.9	5.9
総数(18～49歳)	(2,340)	73.3	39.0	55.1	19.7	20.6	21.2	12.4	4.0	4.3

注：対象は「いずれ結婚するつもり」で希望子ども数が1人以上と回答した18～49歳の未婚者。不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。

同様に、理想的な子どもの数を1人以上と回答した夫婦に、なぜ子どもを持ちたいのかたずねたところ、もっとも多かったのは未婚者と同じく「子どもがいると生活が楽しく豊かになるから」であった。次いで多いのは「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」であり、妻の年齢が高い夫婦ほど選択率が高かった。3番目に多い「好きな人の子どもを持ちたいから」では、逆に妻の年齢が若い層ほど選択率が高かった。

図表Ⅲ-1-12 妻の年齢別にみた、夫婦の子どもを持つ理由：第15回調査（2015年）

妻の年齢 (客体数)	(複数回答)								
	子どもが豊かになる生活か	結婚して自然なことをだかつ	好きな人の子どもの持	子どもは将来の社会の	子どもは夫婦関係を安	子どもは老後の支えに	夫や親など周囲が望む	子どもを認められるから	その他
25歳未満 (70)	72.9	41.4	57.1	8.6	25.7	25.7	14.3	4.3	7.1
25～34歳 (1,116)	77.5	43.3	48.6	18.7	20.3	21.1	17.9	5.1	7.5
35～44歳 (2,396)	79.4	48.2	35.3	21.6	19.9	19.5	13.1	5.0	5.8
45～49歳 (1,065)	77.5	56.1	30.6	22.1	19.4	17.2	9.7	6.2	6.0
総数 (4,647)	78.4	48.7	37.7	20.8	20.0	19.5	13.5	5.3	6.3
(参考)第13回(2005年)総数	78.8	59.6	34.7	21.5	27.1	18.9	12.8	6.1	6.6

注：対象は理想子ども数が1人以上と回答した初婚どうしの夫婦。不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。

4. 夫婦が理想の子ども数を持たない理由

夫婦の予定子ども数が理想子ども数を下回る背景、若い層で顕著な経済的理由

夫婦の予定子ども数が理想子ども数を下回る理由としてもっとも多いのは、いぜんとして「子育てや教育にお金がかかりすぎる」（総数56.3%）であり、とくに妻の年齢35歳未満の若い層では8割前後の高い選択率となっている。また、30歳代では「自分の仕事に差し支える」、「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられない」という回答が他の年齢層に比べて多い。

図表Ⅲ-1-13 妻の年齢別にみた、理想の子ども数を持たない理由：第15回調査（2015年）
(予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦)

妻の年齢 (客体数)	理想の子ども数を持たない理由											
	経済的理由			年齢・身体的理由			育児負担	夫に関する理由			その他	
	子育てや教育にお金がかか	に自差分の支え事(勤めや家業)	家が狭いから	ら高年齢で生むのはいやだか	ら欲しいけれどもできないか	健康上の理由から	か肉体的負担、育児への心理的	得夫らの家事・育児への協力が	ま一で番に成人子が夫のほし年か退職	夫が望まないから	環境でもはなのびのび育つ社会	し自分や夫婦の生活を大切に
30歳未満 (51)	76.5%	17.6	17.6	5.9	5.9	5.9	15.7	11.8	2.0	7.8	3.9	9.8
30～34歳 (132)	81.1	24.2	18.2	18.2	10.6	15.2	22.7	12.1	7.6	9.1	9.1	12.1
35～39歳 (282)	64.9	20.2	15.2	35.5	19.1	16.0	24.5	8.5	6.0	9.9	7.4	8.9
40～49歳 (788)	47.7	11.8	8.2	47.2	28.4	17.5	14.3	10.0	8.0	7.4	5.1	3.6
総数 (1,253)	56.3	15.2	11.3	39.8	23.5	16.4	17.6	10.0	7.3	8.1	6.0	5.9
第14回(総数) (1,835)	60.4%	16.8	13.2	35.1	19.3	18.6	17.4	10.9	8.3	7.4	7.2	5.6
第13回(総数) (1,825)	65.9%	17.5	15.0	38.0	16.3	16.9	21.6	13.8	8.5	8.3	13.6	8.1

注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦。理想・予定子ども数の差の理由不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦の割合は、それらの不詳を除く30.3%である。

理想子ども数3人以上を実現できないのは、おもに経済的理由

理想は1人以上だが予定子ども数が0人という夫婦では、その差の理由として「欲しいけれどもできない」の選択率が74.0%となっている。理想を3人以上としている夫婦では、理想通りの子ども数を持たない理由として「お金がかかりすぎる」を挙げる割合がもっとも高い。次いで、「高年齢で生むのはいや」、育児負担、「仕事に差し支える」、「家が狭い」等の理由を挙げる割合が高い。

図表Ⅲ-1-14 理想・予定子ども数の組み合わせ別にみた、理想の子ども数を持たない理由：
第15回調査（2015年）（予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）

（複数回答）

理想子ども数 下回る組み合わせ	予定子ども数 下回る夫婦の内訳 (客体数)	理想の子ども数を持たない理由											
		経済的理由			年齢・身体的理由			育児負担	夫に関する理由			その他	
		か金が ら育 かて かり すぎ る	えや るか 業の らに 事 差 し 勤 支 め	家 が 狭 い か ら	い高 や年 だ齢 か で ら 生 む の は	き欲 ない い か け ら れ ど も で	健 康 上 の 理 由 か ら	か担 心 こ らに 理 れ 耐 え ら 肉 体 的 負 担	いの 夫 協 力 が 事 得 ら れ な い	人定 一 し 年 番 退 末 の 職 が し ま い か ら 成 る	夫 が 望 ま ない か ら	な育 子 か 社 会 の 環 境 で は び	らを 自 大 切 や に 夫 婦 の 生 か 活
理想1人以上 予定0人	6.1% (77)	15.6%	6.5	1.3	39.0	74.0	24.7	9.1	2.6	2.6	3.9	6.5	9.1
理想2人以上 予定1人	39.2 (491)	43.8	11.8	6.1	42.4	34.8	17.5	14.1	11.6	6.5	9.4	5.7	4.9
理想3人以上 予定2人以上	54.7 (685)	69.8	18.7	16.1	38.1	9.8	14.7	21.0	9.6	8.3	7.7	6.1	6.3
総 数	100.0% (1,253)	56.3%	15.2	11.3	39.8	23.5	16.4	17.6	10.0	7.3	8.1	6.0	5.9

注：図表Ⅲ-1-13と同じ。

予定子ども数を実現できない場合の理由は、「年齢・健康上の理由」が最多

平均予定子ども数は2人を超えた水準にあるものの、実際の出生過程をみるとそれを実現できるペースより低い状態となっている。この要因を探るため、今後1人以上の追加の子どもを持つつもりの方夫婦に、その実現可能性の高さと、予定の子ども数を実現できないとしたときに考えられる理由についてたずねた。

「持つつもりの子どもの数を実現できない可能性は低い」と考える夫婦の割合は前回調査より低下し、総数で12.4%（第14回13.8%）となった。予定子ども数を実現できない可能性について、その理由をみると、「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」が53.4%でもっとも選択率が高い。どの年齢層でも前回調査より選択率が10%ポイント以上大きくなっており、全体として不妊リスクを意識する夫婦が多くなっている。これに次いで多い理由は「収入が不安定なこと」であり、若い層ほどこの理由を挙げる割合が高くなっている。

図表Ⅲ-1-15 妻の年齢別にみた、予定子ども数を実現できない可能性：
第15回調査（2015年）（追加予定子ども数が1人以上の方夫婦）

妻の年齢	総数	(集計客体数)	予定子ども数を実現できない可能性は低い	予定子ども数を実現できない可能性がある	予定の子ども数を実現できない場合の理由（複数回答）					
					収入が不安定なこと	自分の夫の仕事の事情	いらない・育児の協力者が	預保け先所がなどい子どもの	か今かいる子どもに手が	子年齢もや健康上の理由とで
30歳未満	100.0%	(334)	17.4%	82.6	35.9	22.2	14.4	16.8	13.5	28.1
30～34歳	100.0	(405)	13.1	86.9	25.7	22.5	17.5	16.3	17.3	51.1
35歳以上	100.0	(383)	7.3	92.7	17.2	16.7	11.2	9.1	9.1	77.8
総数	100.0%	(1, 122)	12.4%	87.6	25.8	20.4	14.4	14.0	13.4	53.4
(参考)第14回(2010年)										
30歳未満	100.0%	(507)	18.5%	74.8	43.6	19.7	10.5	14.6	12.4	18.9
30～34歳	100.0	(612)	13.9	77.6	27.6	22.1	12.9	14.9	10.0	39.7
35歳以上	100.0	(536)	9.1	82.8	21.3	17.9	10.3	8.6	6.9	65.3
総数	100.0%	(1, 655)	13.8%	78.4	30.5	20.0	11.3	12.7	9.7	41.6

注：対象は追加予定子ども数が1人以上の初婚どうしの方夫婦。35歳以上の集計客体数内訳は、35～39歳（277）、40～44歳（94）、45～49歳（12）。

設問「今後持つおつもりのおさんの数が、もし結果的に持てないことがあるとしたら、その原因は何である可能性が高いですか。」

5. 子どもに受けさせたい教育の程度

未婚女性は未婚男性よりも子どもに受けさせたい教育の程度が高い傾向

未婚男女に（自分の）子どもにどの程度の教育を受けさせたいかをたずねたところ、対象となる子どもの性別にかかわらず「大学」がもっとも多かった。

総じて未婚女性は未婚男性より子どもに高い教育を望む傾向がみられるが、とくに25～29歳では「男の子」に「大学以上（大学院・大学）」の教育を望む割合が83.1%、「女の子」には71.7%と未婚男性との差が大きい（25～29歳の未婚男性が子どもに「大学以上（大学院・大学）」の教育を望む割合は、「男の子」72.6%、「女の子」63.6%）。

図表Ⅲ-1-16 年齢別にみた、未婚者が男の子および女の子に受けさせたい教育の程度：
第15回調査（2015年）

子どもの性別・年齢			総数	子どもに受けさせたい教育の程度							
				大学以上	大学院	大学	短大・高専	専修・ 専門学校	高校・ 中学校	その他・ 不詳	
さ 男 せ の た 子 に 教 育 け	未婚男性	20～24歳	100.0 %	72.1	3.4	68.7	1.1	5.3	17.1	4.4	
		25～29歳	100.0	72.6	4.7	67.9	1.5	4.9	16.3	4.7	
		30～34歳	100.0	69.7	5.4	64.3	1.9	7.1	16.7	4.6	
		小計 18～34歳	100.0	71.8	5.0	66.8	1.3	5.5	16.7	4.7	
		小計 35～49歳	100.0	61.0	3.2	57.7	1.5	7.5	22.9	7.1	
		総 数 18～49歳	100.0	69.0	4.5	64.5	1.3	6.0	18.3	5.3	
		未婚女性	20～24歳	100.0	77.8	2.4	75.4	1.3	4.3	12.2	4.5
	25～29歳	100.0	83.1	3.4	79.6	1.2	6.9	6.0	2.8		
	30～34歳	100.0	74.4	4.0	70.3	1.4	6.3	10.7	7.2		
	小計 18～34歳	100.0	78.4	2.8	75.6	1.3	5.4	10.5	4.4		
	小計 35～49歳	100.0	75.1	4.2	70.9	2.3	7.9	6.5	8.2		
	総 数 18～49歳	100.0	77.8	3.1	74.7	1.5	5.8	9.8	5.1		
	さ 女 せ の た 子 に 教 育 け	未婚男性	20～24歳	100.0 %	65.7	2.1	63.6	4.9	8.1	15.0	6.3
			25～29歳	100.0	63.6	2.4	61.2	5.5	9.3	15.1	6.5
30～34歳			100.0	60.5	2.1	58.5	8.4	8.4	16.7	6.1	
小計 18～34歳			100.0	64.1	2.5	61.6	5.8	8.3	15.5	6.3	
小計 35～49歳			100.0	52.5	1.7	50.7	6.7	9.0	22.2	9.6	
総 数 18～49歳			100.0	61.1	2.3	58.8	6.0	8.5	17.2	7.1	
未婚女性			20～24歳	100.0	66.0	1.5	64.5	7.7	9.9	12.9	3.4
25～29歳		100.0	71.7	2.1	69.6	6.7	11.1	8.1	2.4		
30～34歳		100.0	58.8	1.7	57.1	11.0	11.5	11.0	7.8		
小計 18～34歳		100.0	66.6	1.6	65.0	7.5	10.5	11.6	3.9		
小計 35～49歳		100.0	60.0	3.3	56.7	11.9	10.7	8.0	9.4		
総 数 18～49歳		100.0	65.3	1.9	63.4	8.3	10.5	10.9	4.9		

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～49歳の未婚者。なお、20歳未満の未婚者については掲載を省略。ただし、総数にはこれを含む。客体数は、未婚男性20～24歳（814）、25～29歳（657）、30～34歳（479）、18～34歳（2,320）、35～49歳（802）、18～49歳（3,121）、未婚女性20～24歳（935）、25～29歳（668）、30～34歳（347）、18～34歳（2,296）、35～49歳（522）、18～49歳（2,818）。

設問「あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいですか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。お子さんがいない場合も、いと仮定して、(1) 男の子、(2) 女の子それぞれについてお答えください。」（選択肢：1. 中学校、2. 高校、3. 専修・専門学校（高卒後）、4. 短大・高専、5. 大学、6. 大学院、7. その他）。

夫婦が子どもに受けさせたい教育の程度は、子どもの性別にかかわらず「大学」が最多

夫婦に（自分の）子どもにどの程度の教育を受けさせたいかをたずねたところ、対象となる子どもの性別にかかわらず「大学」がもっとも多く（「男の子」71.5%、「女の子」57.3%）、高校卒業後もさらに教育を受けさせたいと考える夫婦が8割にのぼる。

妻の年齢別では、30歳代において、「女の子」に「大学以上」の教育を受けさせたい割合がやや高く、「大学院」「大学」を合わせて6割を超えている（60.8%）。

第10回調査（1992年）と比べ「女の子」に「大学以上」の教育を受けさせたい夫婦の割合が増加

「女の子」に受けさせたい教育の程度は、第10回調査（1992年）では「短大・高専」がもっとも多かったのに対し（38.5%）、第15回調査（2015年）では「大学以上（大学院・大学）」が増え（59.2%）、「短大・高専」（10.6%）を上回っている。

一方、「男の子」に「大学以上（大学院・大学）」の教育を受けさせたい割合は76.4%と第10回調査（73.9%）から大きな変化はみられない。

図表Ⅲ-1-17 妻の年齢別にみた、夫婦が男の子および女の子に受けさせたい教育の程度：第15回調査（2015年）

子どもの性別・妻の年齢		総数	子どもに受けさせたい教育の程度						
			大学以上	大学院	大学	短大・高専	専修・専門学校	高校・中学校	その他・不詳
た受男 いけの 教さ子 育せに	20～29歳	100.0 %	67.4	3.2	64.2	1.5	8.7	14.0	8.5
	30～39歳	100.0	77.3	4.4	72.9	1.1	5.6	7.4	8.6
	40～49歳	100.0	77.3	5.5	71.7	1.2	5.4	7.1	9.0
	総数	100.0	76.4	4.9	71.5	1.2	5.8	7.8	8.8
た受女 いけの 教さ子 育せに	20～29歳	100.0 %	54.4	1.3	53.2	7.4	12.1	16.1	10.0
	30～39歳	100.0	60.8	2.4	58.4	11.4	9.6	8.6	9.6
	40～49歳	100.0	58.9	1.7	57.2	10.7	10.9	8.6	11.0
	総数	100.0	59.2	1.9	57.3	10.6	10.5	9.3	10.4
(参考) 第10回調査 (1992年)	男の子の教育	100.0	73.9	…	…	6.8	…	7.8	11.6
	女の子の教育	100.0	34.3	…	…	38.5	…	14.7	12.6

注：対象は初婚どうしの夫婦。妻20歳未満の夫婦（4組）については掲載を省略。ただし、総数にはこれを含む。客体数は、第15回：20～29歳（472）、30～39歳（2,023）、40～49歳（2,835）、総数（50歳未満）（5,334）、第10回：総数（50歳未満）（8,844）。

設問 第10回調査：「あなたはお子さんにどの程度の教育を受けさせたいと（受けさせたかった）ですか。（男の子または女の子がいない方は、いると仮定して全員の方が両方にお答え下さい）」（選択肢：1. 中学校、2. 高校、3. 短大・高専、4. 大学・大学院、5. その他）。

第15回調査：「あなた方ご夫婦は、お子さんにどの程度の教育を受けさせたい（受けさせたかった）ですか。あてはまる番号に1つずつ○をつけて下さい。男の子または女の子がいない場合も、いると仮定して、(1) 男の子 (2) 女の子のそれぞれについてお答え下さい。」（選択肢：1. 中学校、2. 高校、3. 専修・専門学校（高卒後）、4. 短大・高専、5. 大学、6. 大学院、7. その他）。

第2章 生活経験と交際・結婚・出生

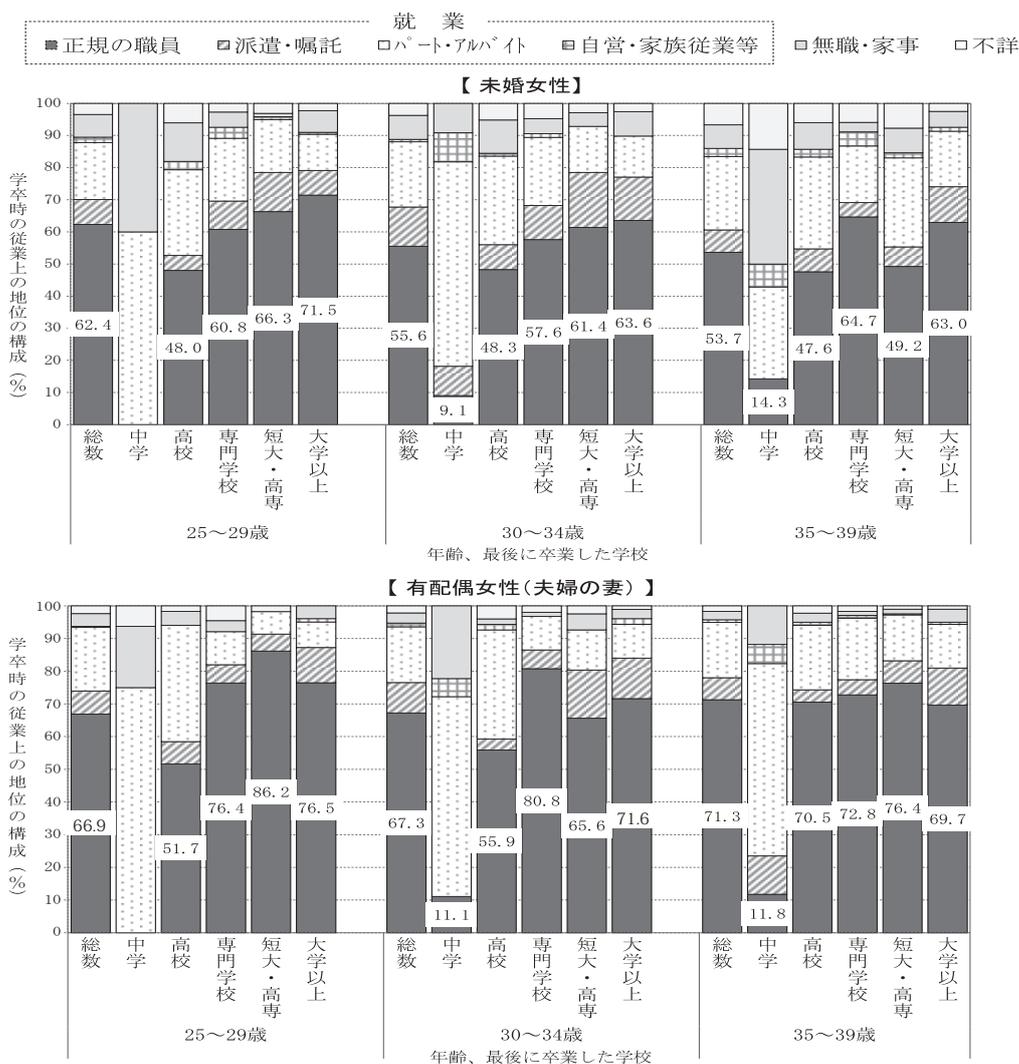
中村真理子・守泉理恵

1. 学卒時の従業上の地位

学卒時にして就業していた割合は、未婚女性よりも有配偶女性で高い

年齢別に学卒時の従業上の地位をみると、25～29歳の未婚者のうち学卒時に正規の職員として就業していたのは62.4%であったが、有配偶女性（夫婦の妻）では66.9%とより高くなっている。この傾向は30～34歳、35～39歳にもみられるほか、最後に卒業した学校別でも同様にみられる。

図表Ⅲ-2-1 年齢・最後に卒業した学校別にみた、学卒時の授業上の地位の構成：
第15回調査（2015年）、未婚女性、有配偶女性（夫婦の妻）



注：対象は25～39歳の未婚女性と初婚どうしの夫婦の妻。学生を除く。「最後に卒業した学校」が不詳については掲載を省略。ただし、総数にはこれを含む。

2. 交際相手・結婚相手との出会いのきっかけ

出会いのきっかけは、未婚者・夫婦ともに職場、友人やきょうだい、学校を通じてが7割を占める

未婚者が交際相手と出会ったきっかけについてみると、男女ともに「学校で」が男性では27.7%、女性では23.7%と最も多く、「友人・兄弟姉妹を通じて」（男性20.6%、女性20.9%）と「職場や仕事で」（男性18.6%、女性21.5%）がこれに続き、この上位3つで約7割を占めている。

一方、夫妻について夫婦が知り合ったきっかけをみると、「友人・兄弟姉妹を通じて」、「職場や仕事で」がそれぞれ30.8%、28.2%とおよそ3割で、次いで「学校で」の出会いが11.7%となっている。これら上位3つは、順番は異なるものの未婚者と共通で、未婚者と同様全体の約7割を占めている。

図表Ⅲ-2-2 未婚者が現在の交際相手と出会ったきっかけの構成

総数（客体数）		職場や仕事で	友人・兄弟姉妹を通じて	学校で	街なかや旅先で	サークル・クラブ 習いごとで	アルバイトで	幼なじみ・隣人	見合いで	結婚相談所で	その他	不詳
【未婚男性】	100.0 % (737)	18.6 %	20.6	27.7	5.0	6.2	5.4	2.6	0.7	0.4	5.3	7.5
【未婚女性】	100.0 (976)	21.5	20.9	23.7	3.5	7.2	6.7	1.8	0.4	0.5	6.4	7.5

注：対象は異性の交際相手（婚約者、異性の恋人、異性の友人）がいると回答した18～34歳未婚者。

図表Ⅲ-2-3 調査別にみた、夫妻が出会ったきっかけの構成

調査 (調査年次)	総数（客体数）	恋愛結婚							見合い結婚	その他	不詳
		職場や仕事で	友人・兄弟姉妹を通じて	学校で	街なかや旅先で	サークル・クラブ 習いごとで	アルバイトで	幼なじみ・隣人			
第8回調査 (1982年)	100.0 % (1,295)	25.3 %	20.5	6.1	8.2	5.8	…	2.2	29.4	0.3	2.2
第9回調査 (1987年)	100.0 (1,421)	31.5	22.4	7.0	6.3	5.3	…	1.5	23.3	1.9	0.8
第10回調査 (1992年)	100.0 (1,525)	35.0	22.3	7.7	6.2	5.5	4.2	1.8	15.2	1.6	0.3
第11回調査 (1997年)	100.0 (1,304)	33.5	27.0	10.4	5.2	4.8	4.7	1.5	9.7	1.9	1.2
第12回調査 (2002年)	100.0 (1,488)	32.9	29.2	9.3	5.4	5.1	4.8	1.1	6.9	3.0	2.2
第13回調査 (2005年)	100.0 (1,076)	29.9	30.9	11.1	4.5	5.2	4.3	1.0	6.4	4.5	2.3
第14回調査 (2010年)	100.0 (1,136)	29.3	29.7	11.9	5.1	5.5	4.2	2.4	5.2	4.8	2.0
第15回調査 (2015年)	100.0 (894)	28.2	30.8	11.7	5.7	4.8	3.8	1.6	6.4	5.0	2.0

注：各調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦について。見合い結婚とは出会いのきっかけが「見合いで」、「結婚相談所で」の結婚。第8、9回調査は「アルバイトで」を選択肢に含まない。

3. 子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価

子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価は、未婚男女で差

子どもとのふれあい経験や友人の結婚生活に対する見方は未婚男女で差がみられ、総じて女性のほうが、ふれあいの機会がよくあり（男性で38.8%、女性で48.8%）、友人の結婚生活を肯定的に見ている（男性で46.5%、女性で58.5%）。両親の夫婦関係については、男女で回答傾向に差はなく、半数が肯定的にとらえている。

図表Ⅲ-2-4 未婚者の年齢別にみた、子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価：第15回調査（2015年）

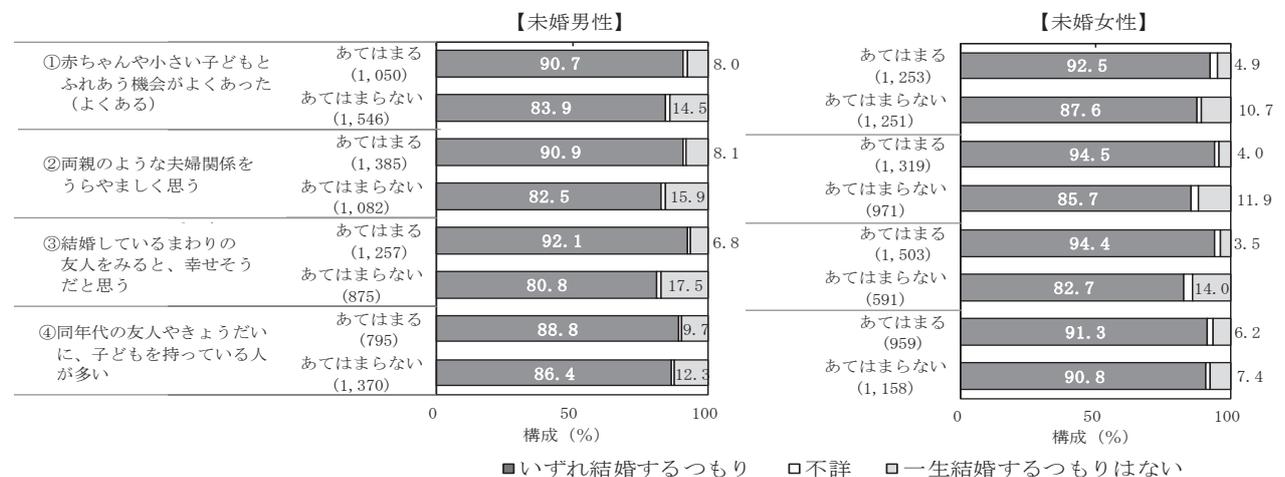
経験／周囲の状況	年 齢	【未婚男性】				【未婚女性】			
		あてはまる	あてはまらない	該当しない	不詳	あてはまる	あてはまらない	該当しない	不詳
① 赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった(よくある)	18～24歳	38.1 %	57.7	...	4.2	46.7 %	50.8	...	2.5
	25～34歳	39.5	56.6	...	3.9	51.2	46.1	...	2.7
	総数(18～34歳)	38.8	57.2	...	4.0	48.8	48.7	...	2.6
② 両親のような夫婦関係をうらやましく思う	18～24歳	51.4	39.5	6.6	2.5	51.1	37.7	9.5	1.6
	25～34歳	51.0	40.5	6.5	2.0	51.5	37.9	8.4	2.1
	総数(18～34歳)	51.2	40.0	6.6	2.2	51.3	37.8	9.0	1.9
③ 結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う	18～24歳	35.8	31.2	30.7	2.3	49.8	21.3	27.3	1.6
	25～34歳	57.0	33.5	7.8	1.8	69.0	25.0	4.4	1.6
	総数(18～34歳)	46.5	32.3	19.1	2.0	58.5	23.0	16.9	1.6
④ 同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多い	18～24歳	16.4	51.5	29.9	2.2	23.9	49.6	25.1	1.5
	25～34歳	42.2	49.8	6.3	1.7	53.5	39.6	5.1	1.7
	総数(18～34歳)	29.4	50.6	18.0	2.0	37.3	45.1	16.0	1.6

注：対象は18～34歳の未婚男女。各年齢層の客体数は、18～24歳（男性1,342、女性1,404）、25～34歳（男性1,363、女性1,166）。設問「あなたの身近な状況について、おたずねします。以下の①～④について、右の欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。質問項目に該当する相手がいない（いなかった）場合は、5に○をつけてください。」（1.あてはまる、2.どちらかといえばあてはまる、3.どちらかといえばあてはまらない、4.あてはまらない、5.該当しない）。

子どもとふれあう機会が多かった（多い）未婚者や、両親や友人の結婚に肯定的な未婚者は結婚意欲が高い

子どもとのふれあい経験、両親や友人の結婚に対する評価などによって、未婚者の生涯の結婚意思に違いがあるかをみてみると、赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会が多かった人や、両親や友人の結婚生活を肯定的にみている人のほうが、「いずれ結婚するつもり」と回答する割合が高い。

図表Ⅲ-2-5 子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価別にみた、未婚者の生涯の結婚意思：第15回調査（2015年）



注：対象は18～34歳の未婚男女。（）内の数値は客体数。

有配偶女性の子どもとのふれあい経験は初婚年齢で差、周囲の結婚に対する評価はおおむね肯定的

結婚持続期間10年未満の初婚どうし夫婦の妻について、結婚以前に子どもとふれあう機会がよくあった（「あてはまる」を選択した）割合を妻の初婚年齢別に比較すると、25歳未満で結婚した妻でもっとも高かった。また、妻が結婚する前に、すでに結婚していたまわりの友人を幸せそうだと思っていた割合は、25～34歳で結婚した妻においてもっとも高く（68.1%）、この年齢で結婚した妻の多くが結婚に対して肯定的なイメージを持っていたことがうかがえる。

図表Ⅲ-2-6 妻の初婚年齢別にみた、子どもとのふれあい経験や周囲の結婚に対する評価：
第15回調査（2015年）（結婚持続期間10年未満の夫婦の妻）

経験／周囲の状況	妻の初婚年齢	総数	あてはまる	あてはまらない	該当しない	不詳
① 赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった	25歳未満	100.0 %	51.7	45.5	…	2.8
	25～34歳	100.0	40.7	56.3	…	3.0
	35歳以上	100.0	44.6	52.2	…	3.2
	小計(妻18～34歳)	100.0	43.1	53.9	…	3.0
	総数(妻50歳未満)	100.0	43.3	53.7	…	3.0
② 両親のような夫婦関係をうらやましく思っていた	25歳未満	100.0	47.6	42.5	7.6	2.3
	25～34歳	100.0	46.8	45.2	5.3	2.8
	35歳以上	100.0	47.8	45.7	3.2	3.2
	小計(妻18～34歳)	100.0	47.0	44.6	5.8	2.7
	総数(妻50歳未満)	100.0	47.0	44.7	5.6	2.7
③ 結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思っていた	25歳未満	100.0	52.9	34.6	10.2	2.3
	25～34歳	100.0	68.1	26.7	2.4	2.8
	35歳以上	100.0	60.2	36.0	1.1	2.7
	小計(妻18～34歳)	100.0	64.7	28.4	4.1	2.7
	総数(妻50歳未満)	100.0	64.3	29.2	3.8	2.7
④ 同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多かった	25歳未満	100.0	30.5	53.7	13.5	2.3
	25～34歳	100.0	42.5	52.2	2.6	2.7
	35歳以上	100.0	60.8	35.5	1.1	2.7
	小計(妻18～34歳)	100.0	39.8	52.5	5.0	2.6
	総数(妻50歳未満)	100.0	41.8	50.9	4.6	2.6

注：対象は結婚持続期間10年未満の初婚どうし夫婦の妻（50歳未満）。客体数は、総数（妻50歳未満）（1,958）、小計（妻18～34歳）（1,772）、初婚年齢25歳未満（393）、25～34歳（1,379）、35歳以上（186）。妻の初婚年齢不詳については掲載を省略。ただし、総数にはこれを含む。

設問「あなたの結婚前までの身近な状況について、おたずねします。以下の①～④について、右の欄のあてはまる番号に1ずつ〇をつけてください。質問項目に該当する相手がない（いなかった）場合は、5に〇をつけてください。」（1.あてはまる、2.どちらかといえばあてはまる、3.どちらかといえばあてはまらない、4.あてはまらない、5.該当しない）。

子どもとのふれあい経験が「あった（ある）」人ほど、望む子ども数が多い

「赤ちゃんや小さい子どもとのふれあい機会がよくあった（ある）」という項目に「あてはまる」と回答した未婚者の平均希望子ども数は、「あてはまらない」と回答した人よりも高い傾向にあった。とくに未婚女性で大きな差がみられた。一方、結婚持続期間10年未満の夫婦の平均理想・予定子ども数についても、ふれあい経験がよくあった妻で高い傾向にある。

図表Ⅲ-2-7 未婚男女・有配偶女性（結婚持続期間10年未満）の子どもとのふれあい経験別にみた、平均希望・理想・予定子ども数：第15回調査（2015年）未婚男女（18～34歳）、夫婦の妻（18～34歳）

対象／指標	子どもとふれあい経験あり	平均値（客体数）	対象／指標	子どもとふれあい経験あり	平均値（客体数）
【未婚男性】 希望子ども数	あてはまる	2.00 人（937）	【夫婦の妻】 理想子ども数	あてはまる	2.45 人（531）
	あてはまらない	1.86（1,267）		あてはまらない	2.36（572）
【未婚女性】 希望子ども数	あてはまる	2.14（1,150）	【夫婦の妻】 予定子ども数	あてはまる	2.32（528）
	あてはまらない	1.89（1,079）		あてはまらない	2.21（570）

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者、および結婚持続期間10年未満の初婚どうしの夫婦の妻（18～34歳）。希望子ども数は5人以上を5、理想・予定子ども数は8人以上を8として算出（不詳を除く）。妻の「子どもとのふれあい体験」は、自身が結婚する前までの状況に対する回答。

第3章 結婚・家族に関する意識

釜野さおり

1. 結婚・家族に関する未婚者の意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」への支持は未婚男女ともに3割前後

結婚、家族、男女関係などについての未婚者の考え方をみると、今回の調査において、未婚男性と未婚女性の双方の8割に支持されている意見は、「③婚前交渉かまわない」、「④女／男らしさ必要」、「⑤自己目標持つべき」の3項目、7割に支持されているのは「②同棲なら結婚」、「⑨母親は家に」の2項目である。また、「⑬産むなら20代のうち」の支持割合は、女性では8割台、男性では7割台である。

一方、男女の支持割合が3割台であるのは「⑪結婚せず子よい」、3割前後であるのは「⑦夫は仕事、妻は家」である。

女性よりも男性で支持が多い項目は、「⑥結婚に犠牲当然」（12%ポイント差）、「⑩離婚避けるべき」（9%ポイント差）、「⑧子ども持つべき」（8%ポイント差）、「①生涯独身よくない」（7%ポイント差）、「⑫男性は家族優先」（6%ポイント差）である。

図表Ⅲ-3-1 結婚・家族に関する未婚者の意識：第15回調査（2015年）

結婚・家族に関する考え方	【未婚男性】			【未婚女性】		
	賛成	反対	不詳	賛成	反対	不詳
① 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない	64.7 %	32.8	2.5	58.2 %	40.2	1.6
② 男女と一緒に暮らすなら結婚すべきである	74.8	22.9	2.4	70.5	27.8	1.7
③ 結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない	86.1	11.1	2.8	83.2	14.8	1.9
④ どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ	84.4	13.2	2.4	82.5	15.7	1.8
⑤ 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである	83.8	13.2	3.0	88.4	9.8	1.8
⑥ 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ	59.3	38.1	2.7	47.2	51.0	1.8
⑦ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	30.7	66.5	2.8	28.6	69.5	1.9
⑧ 結婚したら、子どもは持つべきだ	75.4	21.9	2.7	67.4	30.6	2.0
⑨ 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい	69.8	27.6	2.6	73.0	25.3	1.7
⑩ いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない	69.2	28.0	2.8	59.7	38.3	2.0
⑪ 結婚してなくても、子どもを持つことはかまわない	32.3	64.9	2.8	34.6	63.7	1.7
⑫ 結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要である	70.0	26.8	3.2	63.9	33.1	3.0
⑬ 女性が最初の子どもの産むなら20代のうちがよい	75.3	21.6	3.1	80.1	17.9	2.0

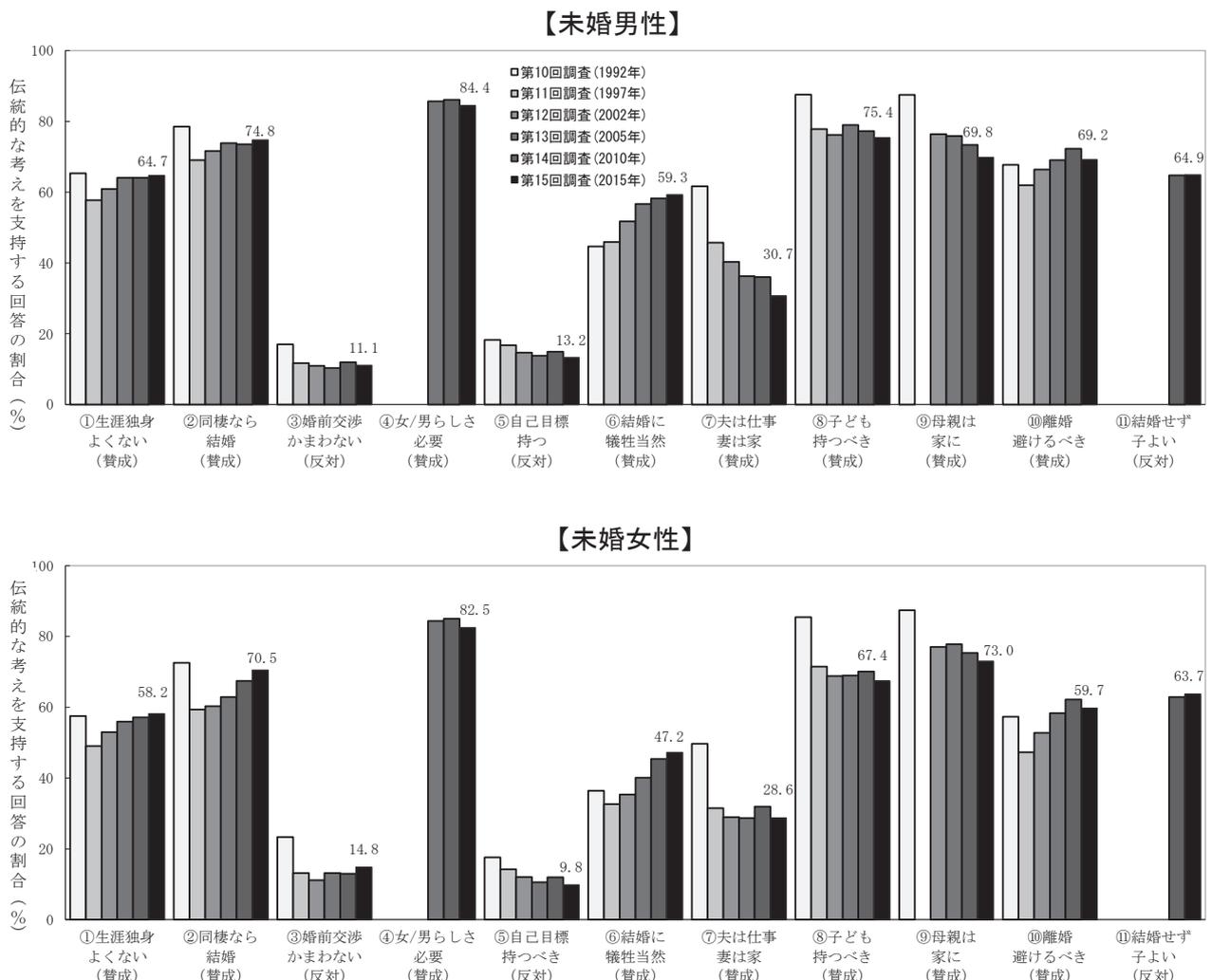
注：対象は18～34歳の未婚者。客体数は、男性（2,705）、女性（2,570）。

未婚者では2000年代以降、「母親は家に」に不支持、「結婚に犠牲当然」に支持の流れ

未婚者の結婚・家族に関する意識について、第10回調査（1992年）からの変化をみると、男性では、「⑥結婚に犠牲当然」への賛成割合（伝統的な考えを支持する回答）が継続的に増加し、「⑦夫は仕事、妻は家」と「⑨母親は家に」の賛成割合（いずれも伝統的な考えを支持する回答）は継続的に減少している。また、第11回調査（1997年）以降に限定すると、「①生涯独身よくない」と「②同棲なら結婚」で賛成割合（伝統的な考えを支持する回答）の増加が続いている。

女性では第10回調査（1992年）から継続して同方向に変化している項目はないが、「⑧子ども持つべき」と「⑨母親は家に」の賛成割合（伝統的な考えを支持する回答）が、おおむね減少傾向にある。また、第11回調査（1997年）以降に限定すると、「①生涯独身よくない」、「②同棲なら結婚」、「⑥結婚に犠牲当然」の賛成割合（伝統的な考えを支持する回答）が増加傾向にある。

図表Ⅲ-3-2 調査別にみた、結婚・家族に関する未婚者の意識（伝統的な考えを支持する割合）



注：対象は18～34歳の未婚者。①②④⑥⑦⑧⑨⑩は賛成の割合（「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計割合）を用いて、③⑤⑪は反対の割合（「まったく反対」と「どちらかといえば反対」の合計割合）を用いて、伝統的な考えを支持する割合として示している。客体数は、第10回男性（4,215）、女性（3,647）、第11回男性（3,982）、女性（3,612）、第12回男性（3,897）、女性（3,494）、第13回男性（3,139）、女性（3,064）、第14回男性（3,667）、女性（3,406）、第15回男性（2,705）、女性（2,570）。④は第13回調査（2005年）から、⑪は第14回調査（2010年）から追加された。⑨は第11回調査（1997年）には含まれていない。グラフ上の数値は第15回調査のもの。

2. 結婚・家族に関する妻の意識

「婚前交渉はかまわない」、「女らしさ男らしさは必要」、「結婚しても自分の目標を」、「最初の子どもの産むなら20代で」に対しては妻から高い支持

結婚・家族に関する妻の意識をみると、8割以上の妻が、「③婚前交渉かまわない」「④女/男らしさ必要」、「⑤自己目標持つべき」、「⑬産むなら20代のうち」という意見を支持している。また、「②同棲なら結婚」、「⑧子ども持つべき」、「⑨母親は家に」、「⑫男は仕事より家族」は6割台、「①生涯独身よくない」、「⑩離婚避けるべき」は5割台の支持を得ている。支持が半数に満たないのは「⑥結婚に犠牲当然」(4割台)、「⑪結婚せず子よい」(3割台)、「⑦夫は仕事、妻は家」(2割台)である。

図表Ⅲ-3-3 結婚・家族に関する妻の意識：第15回調査（2015年）

結婚・家族に関する考え方	総 数 客体数 (5,334)	賛			反			不 詳	(参考) 第14回調査	
		賛 成	賛 成		反 対	反 対			賛 成	反 対
			賛 成 た く	い ど ち ば ら 賛 成 と		反 対 た く	い ど ち ば ら 反 対 と			
① 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない	100.0 %	54.5 %	9.7	44.8	41.3 %	10.7	30.6	4.2 %	57.3 %	38.3 %
② 男女と一緒に暮らすなら結婚すべきである	100.0	69.3	15.8	53.5	27.0	7.3	19.7	3.7	72.3	23.6
③ 結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない	100.0	87.5	34.2	53.3	8.8	1.5	7.3	3.7	82.6	13.4
④ どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ	100.0	85.3	28.4	56.9	10.9	2.5	8.4	3.8	88.4	8.0
⑤ 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである	100.0	85.0	24.7	60.3	10.7	1.2	9.5	4.3	84.0	11.8
⑥ 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ	100.0	48.4	6.2	42.2	47.8	12.3	35.5	3.9	46.4	49.7
⑦ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	100.0	27.3	2.7	24.6	69.0	27.4	41.6	3.7	31.9	64.0
⑧ 結婚したら、子どもは持つべきだ	100.0	66.6	12.3	54.3	28.9	10.7	18.2	4.4	71.2	24.3
⑨ 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい	100.0	63.7	14.4	49.3	32.5	10.2	22.3	3.8	69.5	26.5
⑩ いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない	100.0	52.3	10.7	41.6	43.8	12.4	31.4	3.9	54.9	40.7
⑪ 結婚していなくても、子どもを持つことはかまわない	100.0	35.3	7.7	27.7	60.6	15.5	45.1	4.0	36.4	59.6
⑫ 結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ	100.0	60.0	9.4	50.6	35.0	3.1	31.9	5.0
⑬ 女性が最初の子どもの産むなら20代のうちがよい	100.0	81.9	29.2	52.6	14.1	3.1	11.0	4.0

注：対象は初婚どうしの夫婦。⑫と⑬は第15回調査における新規項目。

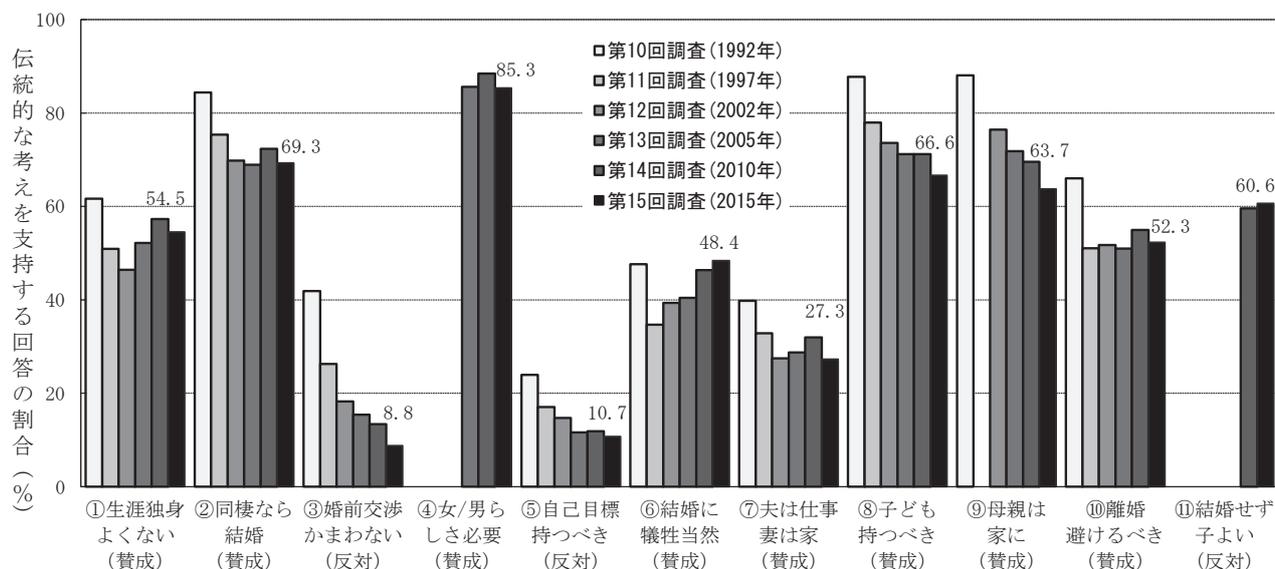
妻の「子どもは持つべき」、「母親は家に」への支持と「結婚後も自己目標持つ」、「婚前交渉はかまわない」への不支持は1990年代から継続して減少

結婚や家族に関する妻の考え方について第10回調査（1992年）からの変化をみると、1990年代にはどの項目においても伝統的な考え方から離れていく傾向がみられたが、2000年代に入ると項目によって変化の傾向に違いが生じている。

同方向の変化が継続している項目は、「③婚前交渉かまわない」、「⑤自己目標持つべき」、「⑧子どもは持つべき」、「⑨母親は家に」の4項目で、いずれも伝統的な考えの支持割合が減少する方向に変化している。

一方、「⑥結婚に犠牲当然」は、1992年から1997年の減少を除けば、賛成割合が増加している。「⑩離婚避けるべき」は、1992年から1997年にかけて賛成割合が低下した以降は、ほぼ横ばいである。その他の項目での経年変化の傾向は明確でない。

図表Ⅲ-3-4 調査別にみた、結婚・家族に関する妻の意識：第15回調査（2015年）
（伝統的な考えを支持する割合）



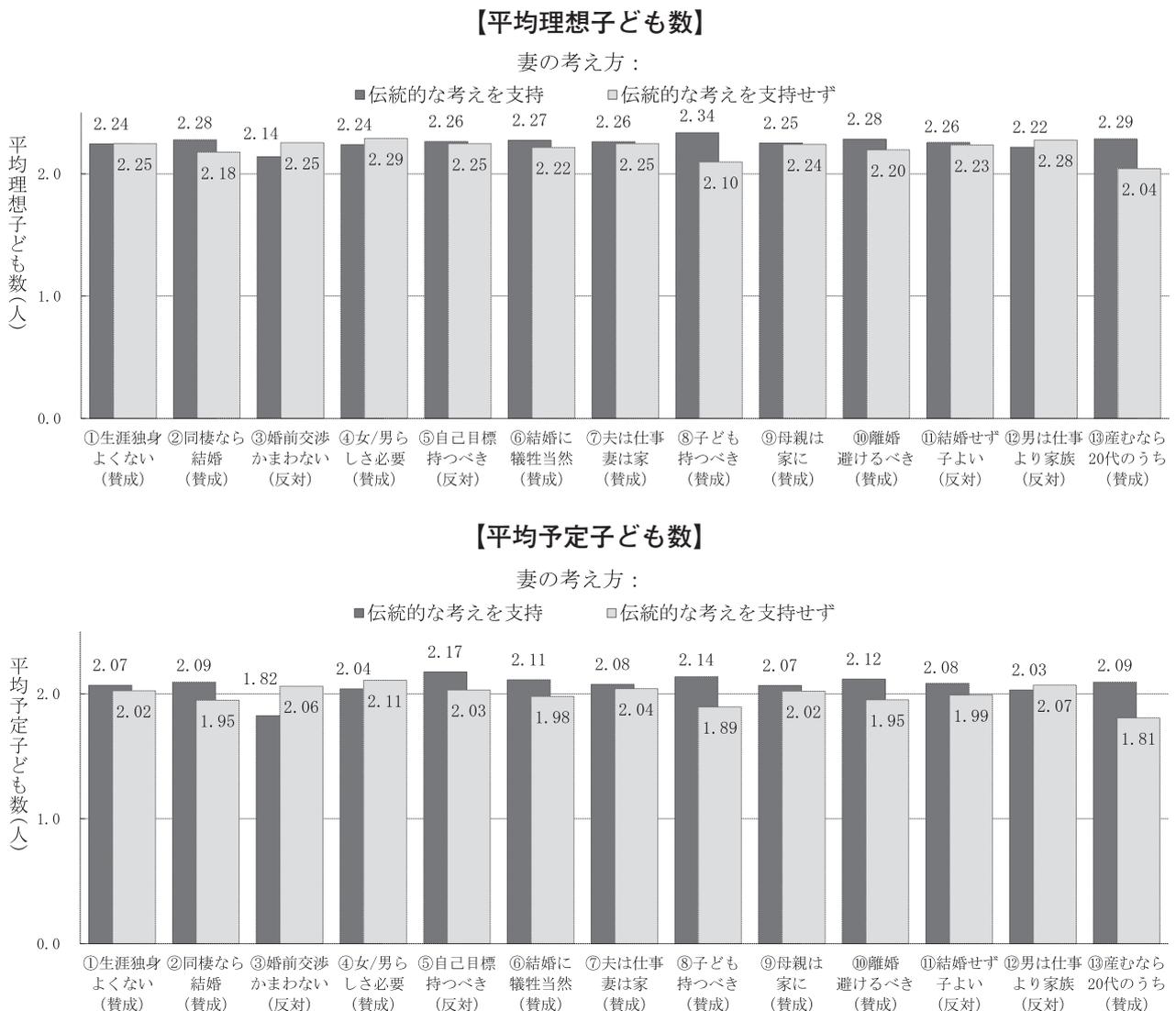
注：対象は初婚どうしの夫婦。①②④⑥⑦⑧⑨⑩は賛成の割合（「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計割合）を用いて、③⑤⑪は反対の割合（「まったく反対」と「どちらかといえば反対」の合計割合）を用いて、伝統的な考えを支持する割合として示している。グラフ内の数値は第15回調査のもの。客体数は、第10回調査（8,844）、第11回調査（7,354）、第12回調査（6,949）、第13回調査（5,932）、第14回調査（6,705）、第15回調査（5,334）。

妻が伝統的な考えを持つ夫婦では、理想および予定子ども数が多い傾向

結婚持続期間0～4年の夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数を、妻が結婚・家族に関して伝統的な考えを支持するか否かによって比較した。多くの項目で、伝統的な考えを支持する妻（棒グラフ左）の方が、支持しない妻に比べ、平均理想子ども数、平均予定子ども数ともに高い。特に「⑧子ども持つべき」、「⑩離婚避けるべき」、「⑬産むなら20代のうち」に賛成する妻の平均理想子ども数と平均予定子ども数は多い傾向にある。

一方、「④女/男らしさ必要」に賛成する妻や、「⑫男は仕事より家族」に反対する妻（ともに伝統的な考えを支持する層）では、伝統的な考えを支持しない層よりも平均理想子ども数、平均予定子ども数のいずれもが低いなど、妻の伝統的考えと出生意欲との関係にはゆらぎもみられる。

図表Ⅲ-3-5 妻の結婚・家族に関する意識（伝統的な考えを支持するか否か）別にみた、理想・予定子ども数：第15回調査（2015年）（結婚持続期間0～4年の妻）



注：対象は結婚持続期間0～4年の初婚どうしの夫婦。①②④⑥⑦⑧⑨⑩では、「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」と回答したグループを伝統的な考えを支持する層、逆に「どちらかといえば反対」と「まったく反対」と回答したグループを伝統的な考えを支持しない層として捉えた。他方、③⑤⑪⑫については逆転して捉えた。横軸の各項目の（ ）内の「賛成」または「反対」は、伝統的な考えを支持する回答。各棒グラフでは、伝統的な考えを支持する層を左に、支持しない層を右に配置し、理想子ども数、予定子ども数の平均値を示している。

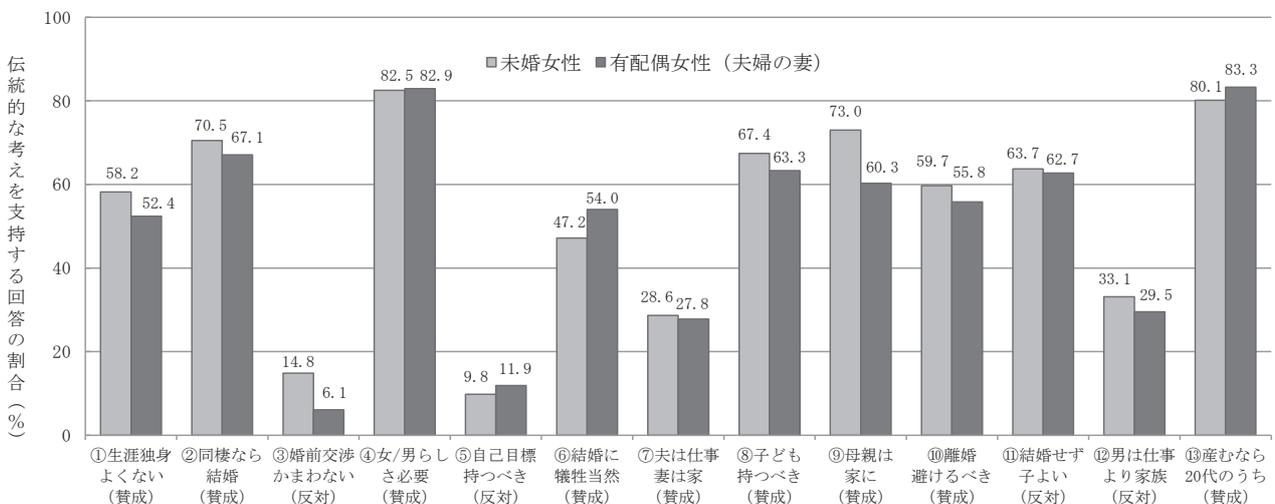
3. 結婚・家族に関する意識：未婚女性と有配偶女性（夫婦の妻）の比較

結婚することや子どもを持つことについては、有配偶女性よりも、未婚女性の方が伝統的な考えを支持する傾向

未婚女性と有配偶女性（夫婦の妻）（いずれも18～34歳）の結婚や家族に関する考え方を比較すると、「①生涯独身よくない」、「②同棲なら結婚」、「⑧子ども持つべき」、「⑨母親は家に」、「⑪離婚避けるべき」という考え方を支持する割合は、有配偶女性よりも未婚女性の方が高い。また、「③婚前交渉かまわない」と「⑬男は仕事より家族」に反対する割合も、未婚女性の方が有配偶女性よりも高い。結婚することや子どもを持つことについては、総じて、未婚女性のほうが伝統的な考えを支持する傾向が強い。特に、「⑨母親は家に」に賛成、「③婚前交渉かまわない」に反対といった伝統的な考えを支持する割合は、それぞれ13%ポイント、9%ポイント、未婚女性が有配偶女性を上回る。この他の項目でも、伝統的な考えを支持する割合は未婚女性の方が3%ポイント以上高い。

一方、「⑥結婚に犠牲当然」と「⑬産むなら20代のうち」については、未婚女性の賛成割合が、有配偶女性をそれぞれ7%ポイントと3%ポイント上回る。結婚後のあり方や出産に適した年齢については、有配偶女性の方が伝統的な考えを支持している。

図表Ⅲ-3-6 配偶関係別にみた、結婚・家族に関する意識：第15回調査（2015年）
（18～34歳の未婚女性と有配偶女性）



注：対象は18～34歳の未婚女性と有配偶女性（初婚どうしの夫婦の妻）。①②④⑥⑦⑧⑨⑩⑬は賛成の割合（「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計割合）を用いて、③⑤⑪⑫は反対の割合（「まったく反対」と「どちらかといえば反対」の合計割合）を用いて、伝統的な考えを支持する割合として示している。客体数は、未婚女性（2,570）、有配偶女性（1,296）。